

2022年度の鉄鋼需要見通し

2021年12月14日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

日本経済／2022年度の日本経済は前年度から緩やかに回復する見通し

2021年度 新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)拡大の影響により、前年度のGDP成長率は大きな落ち込みを見せたが、経済活動の再開により、本年度は回復した。しかしながら、年度前半は感染症拡大による緊急事態宣言による外出自粛の影響もあり、本格回復には至っていない。また、供給面においても、世界的な半導体不足や原材料費の高騰、サプライチェーンの混乱等による影響で、生産活動に制約が見られ、前年度との比較では反動増となるも、基調としては力強さに欠ける状況である。外需は、ワクチン接種の進展や主要国での経済活動再開に伴い、回復が見られるも、前述の半導体不足や原材料費の高騰等が下押し要因となっている。

2022年度 新型コロナウイルス変異株の懸念はあるものの、回復傾向を維持すると期待される。個人消費は行動制限緩和により回復が予想される。設備投資は、年度前半には供給制約が緩和すると予想されており持ち直す見通しである。輸出は、供給制約の解消を背景に、回復が見込まれる。

鉄鋼需給／2022年度の鉄鋼内需は製造部門を中心に前年度比で増加

2021年度

鉄鋼内需 前年度の大規模減の反動により、前年度比では増加が見込まれるものの、総じて回復ペースは緩やかである。建設業では、土木部門で「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により鋼材需要は高位で推移している。建築部門では、住宅取得支援策により住宅需要が増加したほか、非住宅部門では倉庫や物流関連施設の需要が堅調に推移したことから、住宅・非住宅両部門で回復した。製造業では、機械部門は、建設機械、工作機械等で外需に牽引される形で回復した。自動車部門が前年度比で回復も、半導体不足や東南アジアでの感染症拡大の影響による部品不足を背景に生産活動が停滞した。

鉄鋼外需 経済活動の再開により世界の鉄鋼需要が増加し、日本の鉄鋼輸出も前年度比増加を見込む。

粗鋼生産 内外需要の回復により、粗鋼生産は増加を見込む。

2022年度

鉄鋼内需 底堅く推移する見通しである。建設業では、土木部門が高位で推移するも、資材費等のコスト上昇により需要は前年割れを見込む。建築部門では、住宅需要が前年を下回るものの、非住宅部門では工場等への投資が回復すると見られ、鋼材需要は増加する見通しである。製造業では、自動車部門が年度前半に供給ネックが解消し回復すると見られることから、鋼材需要は増加を見込む。機械部門は、設備投資の改善から国内向けも回復すると見られ、鋼材需要も持ち直しが期待される。

鉄鋼外需 前年度水準を見込む。IMFが2022年の世界経済が回復すると予測していることに加え、世界鉄鋼協会の短期需要見通しにおいても世界鉄鋼需要の増加を見込むものの、国内鉄鋼需要が増加することから、日本の鉄鋼輸出は前年度同水準で推移する見通しである。

粗鋼生産 2022年度の粗鋼生産は前年同水準で推移する見通しである。

リスク 新型コロナウイルス変異株、グローバルサプライチェーンの混乱、原材料費などの高騰、米中貿易摩擦、中国経済の動向

粗鋼生産の推移

